

2021.2.9(火)神の教会連盟全国牧師会

## 靈性の回復セミナー

テーマ

「人の『心』に対する神のご計画」

銘形 秀則

# 最初の祈り

【新改訳2017】詩篇119篇18節  
私の目を開いてください。

私が目を留めるようにしてください。

あなたのみおしえのうちにある奇しいことに。

(原文直訳)

取り除いてください 私の目の覆いを。

そうすれば、私は目を留めることができます。

あなたの教え(トラー)にある不思議さに。

# 人の「心」についての 問題意識

【新改訳2017】創世記2章16～17節

16 神である【主】は人に命じられた。「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。

17 しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」

〔一つの質問〕

●神の命令に反したことで、人とその妻は「死ぬ」者となりました。その死はどのようにして現れ始めたのでしょうか。

# 人の「心」についての 問題意識

①【新改訳2017】マタイの福音書22章37節

「心を尽くし・・・て、あなたの神、主を愛しなさい。」

②【新改訳2017】ルカの福音書24章45節

「それからイエスは、聖書を悟らせるために  
彼らの心を開いて、」

●ところで、ここでいう「心」とはいったい何でしょうか。

①マタイ22章37節の「心」は「カルディア」(καρδία)、

②ルカ24章45節の「心」は「ヌース」(νοῦς)が使われています。「カルディア」(καρδία)も「ヌース」(νοῦς)も同義語。

●ちなみに、ヘブル語訳では①②に「レーヴァーヴ」(לֵבַב)が使われています。ヘブル語の「心」は、一般的には「レーヴ」(לֵב)が使われます。לֵב は601回、לֵבַב は252回です。いずれも人の思考(思い)・理解・意志(計画)を表します。一方、喜びや悲しみといった感情(情緒)面は「キルヤー」(קִלְיָר)で表されます(詩篇7:9にはこれら二つが使われています)。

●今回のセミナーでは、この「心」(לֵבַב/לֵב)について、聖書(タナフ)がどのように教えているかを学びたいと思います。

# 「心」についての記述 ①

## (1) 創世記6章5節

【主】は、地上に人の悪が増大し、その心に凶ることがみな、いつも悪に傾くのをご覧になった。

## (2) 創世記8章21節

【主】は、その芳ばしい香りをかがれた。そして、心の中で【主】はこう言われた。「わたしは、決して再び人のゆえに、大地にのろいをもたらしはしない。人の心が思い凶ることは、幼いときから悪であるからだ。わたしは、再び、わたしがしたように、生き物すべてを打ち滅ぼすことは決してしない。

## 「心」についての記述 ②

### (3) 創世記 17章17節

アブラハムはひれ伏して、笑った。そして心の中で言った。  
「百歳の者に子が生まれるだろうか。サラにしても、九十歳の女が子を産めるだろうか。」

### (4) 申命記29章4節

しかし、【主】は今日に至るまで、あなたがたに悟る心と見る目と聞く耳を与えられなかった。

※「悟る心」とは、神のみわざに隠された啓示を理解すること。

## 「心」についての記述 ③

### (5) エレミヤ書4章3~4節

3 まことに、【主】はユダの人とエルサレムに、こう言われる。「**耕地を開拓せよ**。茨の中に種を蒔くな。

4 ユダの人とエルサレムの住民よ。【主】のために割礼を受け、**心の包皮を取り除け**。そうでないと、あなたがたの悪い行いのゆえに、わたしの憤りが火のように出て燃え上がり、消す者もいないだろう。」

※「耕地を開拓せよ」と「心の包皮を取り除け」(=心の割礼)は同義。



## 「心」についての記述 ④

(6) エレミヤ書17章1, 5, 9節

1 ユダの罪は、鉄の筆と金剛石の先端で記され、  
彼らの心の板と彼らの祭壇の角に刻まれている。

※「青銅の祭壇の四隅にある角に罪が刻まれている」とは「罪が赦されない」の意味。

5 【主】はこう言われる。「人間に信頼する者はのろわれよ。  
肉なる者を自分の腕とし、心が【主】から離れている者は。

※心が主から離れている者はのろわれる運命にある。

9 人の心は何よりもねじ曲がっている。それは癒やしがたい。  
だれが、それを知り尽くすことができるだろうか。

※人間の心が偽りに満ちており、救い難いことを主張しています。

# 「心」についての記述 ⑤

(7) 申命記30章2～3, 6節〔モアブ契約における預言〕

2 あなたの神、【主】に立ち返り、私が今日あなたに命じるとおりに、  
あなたも、あなたの子どもたちも、心を尽くし、いのちを尽くし、  
御声に聞き従うなら、

3 あなたの神、【主】はあなたを元どおりにし、あなたをあわれみ、  
あなたの神、【主】があなたを散らした先の、あらゆる民の中から、  
再びあなたを集められる。(青字はすべて「シューヴ」<sup>כּוּשׁוּב</sup>)

6 あなたの神、【主】は、あなたの心と、あなたの子孫の心に割礼を施し、  
あなたが心を尽くし、いのちを尽くして、あなたの神、【主】を愛し、  
そうしてあなたが生きるようにされる。

※6節の主動詞は原文冒頭にある「割礼を施す」(「マーラル」<sup>לָמַד</sup>)です。

※モアブ契約には「主に立ち返る(悔い改める)なら」という条件が含まれています。しかし、その条件さえも、「心に割礼を施す」という神の恵みによって満たすことができるのです。

# 「心」についての記述 ⑥

## (8) エレミヤ書 24章7 節

わたしは、わたしが【主】であることを知る心を彼らに与える。彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。彼らが心のすべてをもってわたしに立ち返るからである。

※そもそも民の罪は「心の板」に刻まれており(エレ17:1)、「人の心は何よりもねじ曲がっている。それは癒やしがたい」(17:9)とあります。人の心は、人の力での改善が不可能であることを示しています。しかし、24章7節はきわめて重要な箇所です。なぜなら、エレミヤ書全体の中心思想が言い表されているからです。神ご自身が民に、主を知る心を与え、神へと立ち返らせるからです。そして、31章の「新しい契約」へと導いています。

# 「心」についての記述 ⑦

(9) エレミヤ書31章31～33節

31 見よ、その時代が来る——【主】のことば——。そのとき、

わたしはイスラエルの家およびユダの家と、**新しい契約**を結ぶ。

32 その契約は、わたしが彼らの先祖の手を取って、エジプトの地から導き出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破った——【主】のことば——。

33 これらの日の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうである——

——【主】のことば——。**わたしは、わたしの律法を彼らのただ中に置き、**

**彼らの心にこれを書き記す。**わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

※「わたしの律法を彼らのただ中(בְּקִרְבָּם)に置き、彼らの心(בְּלִבָּם)にこれを書き記す」、その目的は民が「主を知る」ためです(イザヤ11:9)。これが新しい神の創造です。

# 「心」についての記述 ⑧

(10) マタイの福音書22章36～40節

36 「先生、律法の中でどの戒めが一番重要ですか。」

37 イエスは彼に言われた。「『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい(原文は未来形で「愛するようになる」)。』

※ギリシア語では「心」(καρδία)、「いのち」(ψυχή)、「知性」(διανοία)。

ヘブル語では「心」(לב)、「いのち」(נפש)、「知性」は「力」(גחמה)と訳されます。

38 これが、重要な第一の戒めです。

39 『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい(原文は未来形で「愛するようになる」)』という第二の戒めも、それと同じように重要です。

40 この二つの戒めに律法と預言者の全体がかかっているのです。」

※どうして「愛するようになる」のかと言えば、神が聖霊によって人の心に割礼を施し、律法を人のただ中に置き、人の心に書き記すからです。

# 「心」についての記述 ⑨

(11) ローマ人への手紙10章4~6, 8節

4 律法が目指すものはキリストです。それで、義は信じる者すべてに与えられるのです。

5 モーセは、律法による義について、「律法の掟を行う人は、その掟によって生きる」と書いています。

6 しかし、信仰による義はこう言います。 . . .

8 . . . 「みことばは、あなたの近くにあり、あなたの口にあり、あなたの心にある。」 (申命記30:14からの引用、「モアブ契約」より)

※8節に記されているのが「心の割礼」であり、律法が心のうちに書き記されることなのです。これが「新しい契約」における福音です。神が「隠されていること」(申29:29)が、キリストによって明らかに示されたのです。

# 「心」についての 「すでに」と「いまだ」

●以下のみことばを、再度考えるなら、①と②の順序は逆になります。

②「それからイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて  
(開いた)」(ルカ24:45)

①「心を尽くし・・・て、あなたの神、主を愛しなさい(愛するようになる)。」  
(マタイ22:37)

●つまり、聖書を悟らせるために(理解することができるために)、主が私たちの心(思考・理解力・意志・願いの部分)を開いてくださるので、私たちは心を尽くして主を愛するようになるのです。これが福音です。しかしそのためには、「すでに」と「いまだ」の終末論的緊張関係があることを知っていなければなりません(1コリント13:12)。このことを知ることで、パリサイ的な偽善と、無力さによる自己卑下から守られるだけでなく、正しい信仰と希望をもって生き抜くことができるのです。

# 終わりの日に

【新改訳2017】使徒の働き2章16～18節

16 これは、預言者ヨエルによって語られたことです。

17 『神は言われる。終わりの日に、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は**預言し**、青年は**幻を見**、老人は**夢を見る**。

18 その日わたしは、わたしのしもべにも、はしためにも、わたしの霊を注ぐ。すると彼らは**預言する**。

※預言・幻・夢は同義的パラリズムで、神のご計画とみこころを意味しています。イスラエルの残りの者に「恵みと嘆願の霊」(ゼカリヤ12:10)が注がれるとき、彼らは神に立ち返り、神のすばらしいご計画を語るのです。それはメシア王国においても語られ、神の栄光が現わされることでしょう。



# 最初の祈り

【新改訳2017】詩篇119篇18節  
私の目を開いてください。

私が目を留めるようにしてください。

あなたのみおしえのうちにある奇しいことに。

(原文直訳)

取り除いてください 私の目の覆いを。

そうすれば、私は目を留めることができます。

あなたの教え(トラー)にある不思議さに。

# 最後の祈り

【新改訳2017】詩篇119篇18節

**私の目を開いてください。**

**私が目を留めるようにしてください。**

**あなたのみおしえのうちにある**キリスト**に。**

**なぜなら、**

**律法が目指すものは**キリスト**だからです。**